

最終戦の課題 来季の糧



久原 大輝

ゴールデンウィークの風物詩である、全日本男女選抜大会（黒鷲旗）が終了した。Vリーグの最終戦以降、少しの間休みを設けた後、黒鷲旗に向けてチームは約2週間、ディフェンスシステムの構築を主として準備をしてきた。



メインセッターとして活躍した阿部選手^左と守護神井上航選手

（4日）

大会に入り、1次リーグの3試合は危なげなく3連勝。負ければ終わりの一発勝負となる決勝トーナメント初戦の対戦相手は東レだった。Vリーグ3位決定戦では、激闘を演じたが敗戦。リベンジを果たす時が来た。と、全員の闘志にスイッチが入った。

互いにリーグ戦のメンバーとは入れ替わりがあったが、熊倉元、阿部大樹両選手が、これまで試合に出られなかった鬱憤^{うづみん}を晴らすかのごとく、コート上で躍動。今大会限りで引退の井上航選手は、抜群のボールコントロールと「気が付けばそこにいる」という鋭い嗅覚のディフェンスでチームを後衛からもり立て続けた。

一進一退の好ゲームを演じたが、惜しくもフルセットでの敗戦となった。よく頑張ったと選手たちをたたえたいが、勝てるチャンスがたくさんあったのも事実。来季へ向けて、多くの課題を得られた一戦だった。この壁を乗り越えるために、また精進していきたい。

（JT広島マネジャー）